

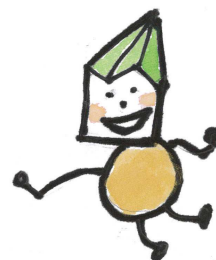
小説を描くのにシナリオを学ぶことは必須！

大阪校出身小説家へのアンケート集

Q「小説を書く上で、シナリオ学習のどのような点が役立っていますか？」

HKさん

「小説的な文章作法以外はすべて役に立つ気がします。特にシナリオ作りにおける魅力的な人物作り、飽きさせない構成、楽しませるストーリー作りが、小説でもとても参考になっています。あとシナリオ・センター大阪校研修科での「魅力的な男・女」と「一瞬シリーズ」はとても力になりました。今になって思いですが、シナリオ・センター大阪校の授業で一番重要な講義だったのではないかと思います」



MNさん

「小説は、視点の問題やディティールの描写が難しいですが、それをクリアすれば文学賞ではとても有利です。なぜなら、登場人物のキャラクター作りやストーリーにおける構成の点で、シナリオ・センターの受講者は、他の小説専門の応募者より遥かに高いテクニックを身に付けているからです。シナリオ・センターでは、基礎科から段階的にコンテンツを作るテクニックを身に付けて行きますが、小説の世界には、そのような学習機会そのものがありません。そのため独学で習得するしかなく、とても長い期間と無駄な努力を必要とするようです。私が今回受賞した賞は、中間・エンタメ小説が対象で、受賞作品の傾向にも幅があるので、シナリオ・センターで学ばれている方が応募するには、最適な文学賞だと思います」



FMさん

「小説はシナリオとは違って心情を細かく書きこむことも出来ませんが、全部説明してしまうよりも読者さんが想像する余地を残すことを心がけています。その点では映像で描写するシナリオの技術が役立っていますね。あと、登場する部屋の広さや小道具の配置など、映像としてきちんと浮かべて描けるようになったのもシナリオ・センターでの勉強のおかげです」

OYさん

「今回の受賞作は主役と副主役を対立させながら、徐々に謎を解決していき、やがてお互いに認め合うという形です。主役と副主役の間で葛藤を生み出させるというシナリオ技術は生きていますね。魔法を使う弁護士ヒロインが、暗殺者の副主役を弁護して冤罪を晴らすという作品ですので、正反対の役柄の主役と副主役でストーリーを進めていくというシナリオ技術は役に立っています」



IHさん

「最初の掴み、構成の仕方など、いろんなことが役に立っています。シナリオ・センターで学ぶ以前と決定的に違うのは、読む人を意識することでした。本作品も犬が人間に語りかけてくるような文体にしていますが、そうしたことは明確に意識しています。また、取材とリアリティについて学んだこと、『徹底的に取材して、わかった上で、嘘をつく』というのは、そのまま使わせていただきました。本作品執筆にあたっても、災害救助犬の訓練所に電話で取材申し込みをしていろいろお話を伺いました。出版後も取材先の方は喜んでくださったし、今でも仲良くお付き合いしています」

TRさん

「シナリオで学んだことは本当にたくさん役立っています。シナリオでも小説でも『人間を描く』ことは忘れたくありません。その他にも役立ったことはたくさんありますが、今回の作品でひとつあげるとすれば、『小道具』の使い方はシナリオと同じです。登場人物のキャラクターを際立たせたり、感情を表現するうえで、シナリオでも小道具は欠かせません。小説においても小道具を効果的に用い、出しばなしにしないということを心がけています」

